



写真/文 青沼 豊晶

ALPS PRESS

2009年 5月 12日

11号



長野県塩尻市塩尻町260番地 TEL0263 - 52 - 1150

◆芽かきの時期を迎えます。



5月9日のメルロー

ぶどうが萌芽し新梢が伸びだしてくると、「芽(新梢)かき」の時期を迎えます。暖冬だった今年には生育がやや進んでおり、例年より早く作業に取り掛かります。「芽かき」はぶどうを栽培する一年のサイクルのなかで、収量を制限するための作業の一環です。落葉後余分な枝を取り除き、その年に芽を出させる枝を決定するのが冬季剪定です。そして芽かきは、その第二弾とも言えるべきものでしょうか。必要以上に芽を残してしまうと品質の高いぶどうが育たないだけでなく、新梢が密集するため風通しが悪くなり、病気にかかりやすくなります。不要な芽や新梢をかきとることで日当たりも良くなり、ぶどうの生長を助けます。

◆4月28日の霜害・・・



ぶどうの赤ちゃん

5月9日のナイアガラ

4月28日、恐れていた霜が降りました。霜は、大陸から寒気が移動性の高気圧に伴って日本上空に襲来し、放射冷却によって明け方異常な低温となるのが原因です。

霜害といっても、霜が直接被害を与えるわけではありません。霜が降りるほどの低温によって農作物の細胞の内または外の水分が凍り、そのために細胞は奪水されて枯死するので、寒害または凍害と同じなのだそうです。

県農業政策課の速報によると、28日朝の霜による被害は松本地方事務所管内では3市1町1村で松本市内のリンゴが最も被害が大きかったと発表しています。他、ブドウやナシなどの果樹、アスパラガスなどの野菜の畑にも被害があったということでした。

出荷組合員の方向何人かに様子を伺いましたが、やはりコンコード、ナイアガラで多少被害を受けたようです。しかしそこはプロ、霜にやられなかった芽を生かす方法でカバーするとのことでした。いくつか圃場を回りましたが、見た感じでは大分回復したように思いました。(上の写真のメルローは、霜害を免れました。)



6月、ここに花が咲きます

5月9日のコンコード